

平成 30 年度 東地域包括支援センター自己評価報告書

自己評価実施日	平成30年12月26日
行政評価実施日	平成31年1月16日
運営協議会開催日	平成31年2月6日

包括情報	
法人名	社会福祉法人 緑星の里
責任者	米田清美
所在地	苫小牧市沼ノ端中央4丁目14番24号
連絡先	0144-52-1155

地域情報	
担当地区	明野元町、あけぼの町、字植苗、字柏原、ウトナイ北、ウトナイ南、新開町、拓勇西町、拓勇東町、東開町、字沼ノ端、北栄町、字美沢、字勇払
高齢者人口	5,307 人(H30.10.1現在)
高齢化率	14.6 %(H30.10.1現在)
地域特性	高齢化率の高い鉄北地区と、新興住宅地で高齢化率の低い拓勇、ウトナイ地区に分かれている。人口は三万人を超えている。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 1 人	常勤職員 5 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 人
社会福祉士 2 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 4年

総合評価	
自己評価	行政評価
地域活動を継続して行っていることで、地域からの信頼もあり、地域の包括支援センターとしての役割は果たすことが出来ていると感じている。総合相談にも、真摯に対応してしている。	定期的な地域ケア会議や相談業務、関係機関との連携を通じて、地域課題や既存の社会資源を把握し、地域性を生かした地域づくり・資源開発を展開している。今後も圏域の強みを生かしながら、地域づくりを進めていくことを期待する。

評価項目

1 運営体制

- (1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている
- (2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している
- (3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている
- (4)個人情報含む記録物を適切に保管している
- (5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している
- (6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている
- (7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている
- (8)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%)未満
- (9)相談・面談室のプライバシーが確保されている
- (10)休日・夜間の連絡体制が整備されている

特記事項	自己評価	行政評価
	体制においては、環境整備を含め努力している。	毎朝のミーティングと月1回の職員会議を行い、職員同士の業務の把握ができています。今後も現体制の維持・向上を期待する。

2 共通的支援基盤構築

- (1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている
- (2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている
- (3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている

特記事項	自己評価	行政評価
	町内会の広報や、包括独自のチラシを作成し活動のPRを行っている。独自の地域活動を行う事でニーズの把握も容易にできるようになっている。	積極的に地域に足を運び、既存の社会資源やニーズの把握を行い、その地域にあった地域活動に展開していること、その取り組みが継続されていることを高く評価する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
特記事項	自己評価	行政評価
	どのような相談にも真摯に対応する姿勢で業務に取り組んでいる。男性介護者の会を定期開催している。	定期的な打ち合わせとケース検討はホワイトボード等積極的に活用し、情報の共有が図られている。今後も支援者に対し丁寧な対応を期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
特記事項	自己評価	行政評価
	地域ケア会議のほか、カンファレンスを適宜に開催している。ケアマネジャーと民生委員との勉強会も定期に開催している。	病院や薬局等多くの関係機関や専門職と連携を得ながら、独自の東胆振ネットワークに展開しており、効果的に地域ケア会議を開催、地域資源の情報提供が行われている。今後地域性の異なる各地域での地域ケア会議展開に期待する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	できるように心がけている。利用者に対して適切にアドバイスを行うようにしている。	地域性があり、地区によっては介護予防事業等の参加につながりにくい環境もあると思うが、利用者の介護予防に努めた支援を行っている。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や検索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	本人の側の支援を心がけている。サービス調整だけにとどまらない支援を行っている。推進員との連携で支援チームの活動もうまくいっている。	サポーター養成講座や検索模擬訓練等を活用し、地域住民へ正しい知識の普及を図っていること、また郵便局での相談会や東胆振ネットワーク等独自の事業を展開し、認知症の方を支える地域づくりを展開している。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	地域ケア会議に参加してもらったり、日頃からの連携も心がけている。	日頃より医療機関や介護関係機関と連携しており、地域ケア会議参加の協力を得ている。今後の課題として、医療相談室のない個人病院との連携をあげており、働きかけに期待したい。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
特記事項	自己評価	行政評価
	適切に地域ケア会議を開催している。コーディネーターとは、地域ケア会議以外でも日頃から話し合う機会を持っている。	地域ケア会議や相談業務等であげられる地域課題や資源把握を地域づくりに活かしている。今後も生活支援コーディネーターとともに、地域性を活かした資源開発に展開できるよう期待したい。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	教室の利用者への情報提供、アセスメントを適切に行っている。はつらつ教室に繋ぐケースもある。地域の会合では予防の周知も必ず行っている。	介護予防教室では、参加者の自主性を大切に、対象者の身体機能に合わせて対応している。今後も、地域の関係機関等を巻き込んだ介護予防の普及啓発の展開を期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
<p>独自の地域活動のほか、地域ケア会議や認知症初期集中支援チームの活動が、適切に行えるよう意識して活動してきた。特に認知症の相談件数の増加に伴い、推進員との連携がうまくいっている。</p>
2 今年度事業の達成状況及び成果
<p>地域活動に特に力を入れて行った。地域食堂では、ボランティアに大勢の方が参加。年代を越えて、交流する機会となっている。民生委員とケアマネジャーとの勉強会も定例で行い、地域の課題を共有し、解決に向かう手段を考える会となり得ている。例年同様、地域での活動を積極的に行う事で、アウトリーチにもつながっていることが実感できている。生活支援コーディネーターとの連携では具体的に成果につながる事がなかった。町内会によっては、協力体制が薄い地域もあり、今後の課題となっている。</p>
3 達成できた又は達成できなかった原因
<p>継続して地域活動に取り組んできた成果が見られている。コーディネーターとの連携や、医療関係者との連携については、課題を残すこととなったが、包括単体では解決できないこともあり、団体や行政との連携が必須であると感じている。</p>
4 課題及び今後の取組み
<p>認知症高齢者の増加に伴い、若い人たちへの啓発活動が必要。勇払地区の高齢化が大きな課題。</p>